

2010年5月12日

2009年度 決算説明資料

・業績サマリー	P.2
・2009年度 連結決算について	P.3 ~ 11
・2010年度 業績予想について	P.12
・新製品開発状況について	P.13 ~ 23
・その他	P.24 ~ 25

[注意事項]

- 1) 「平成22年3月期 決算短信」並びに本説明資料は、2010年5月12日午後3時40分に大阪証券取引所及び東京証券取引所において記者発表し、公開しております。また同時刻に、これらの資料は東京証券取引所の「適時開示情報閲覧サービス」に掲載されています。
- 2) 「平成22年3月期 決算短信」並びに本説明資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。



田辺三菱製薬

< 目次 >

. 業績サマリー	…	2		
1. 2009年度 業績サマリー	2. 2010年度 業績予想サマリー	3. 配当金	…	2
. 2009年度 連結決算について	…	3 ~ 11		
1. 損益状況	…	3 ~ 7		
損益実績	事業別売上高	売上原価 / 販売費及び一般管理費	…	3
主要製品売上高			…	4
営業外損益	特別損益	法人税等	…	5
四半期業績推移(損益計算書)			…	6
四半期業績推移(主要製品売上高)			…	7
2. 財務状況	…	8 ~ 9		
資産・負債・純資産の状況	主要項目の増減		…	8
キャッシュ・フロー計算書	設備投資 / 情報システム開発投資		…	9
減価償却費			…	9
3. 関係会社	…	10 ~ 11		
関係会社数	主要連結子会社の財務数値・従業員数		…	10
その他の連結子会社一覧	持分法適用非連結子会社一覧		…	11
持分法適用関連会社一覧			…	11
. 2010年度 業績予想について	…	12		
損益予想	…	12		
. 新製品開発状況について(2010年5月12日現在)	…	13 ~ 23		
1. 国内開発状況	…	13 ~ 14		
新規化合物	…	13		
効能追加	…	14		
2. 海外開発状況	…	15		
新規化合物	効能追加	…	15	
3. 導出品の開発状況	…	16		
4. 2009年度第1四半期決算発表時点(2010年1月28日)からの変更点	…	17		
5. 新製品開発状況補足資料(2010年5月12日現在)	…	18 ~ 21		
国内 新規化合物	…	18		
国内 効能追加	…	19		
海外 新規化合物	海外 効能追加	…	20	
導出品	…	21		
< 参考 > 主要医療用医薬品補足資料	…	22 ~ 23		
. その他	…	24 ~ 25		
1. 株式の状況	…	24		
発行済株式数	配当金推移	大株主の状況	…	24
所有者別株式数分布状況	外国人持株比率		…	24
2. その他関連データ	…	25		
従業員数(就業人員数)推移	2009年10月以降のトピックス	…	25	

業績サマリー

(億円未満四捨五入)

1. 2009年度 業績サマリー

売上高	4,047 億円	対前期比	100 億円	2.4 %
医薬品事業	3,957 億円	対前期比	85 億円	2.2 %
その他事業	90 億円	対前期比	185 億円	67.3 %

売上高は前期比100億円減の4,047億円となった。

エービーアイ コーポレーション(以下APIC)株式の一部売却により、同社を連結子会社から持分法適用関連会社に変更したことで、同257億円(医薬品事業108億円、その他事業149億円)の減収要因となった。

医薬品事業では、売上高は同85億円増収の3,957億円となった。国内医療用医薬品は、抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード」、選択的¹遮断剤「メインテート」などが順調に推移したほか、新型インフルエンザワクチン「A型インフルエンザHAワクチン(H1N1株)」や乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン「ジェービックV」の発売によりワクチンが大幅増収、さらにジェネリック医薬品も増収となったことで、同192億円の増収となった。

一方、海外医療用医薬品は、円高の影響を受け減収となった。また、APICの連結除外による影響で、製造受託品(他社製品の医薬原体等)なども大きく減収となった。

その他事業では、APICの連結除外による影響に加え、化成品が国内外で減収となり、売上高は同185億円減収の90億円となった。

各事業の主たる製品及び役務の内容

医薬品事業: 医療用医薬品、一般用医薬品

その他事業: 化成品、不動産賃貸業、情報サービス、宣伝製作物等

営業利益	615 億円	対前期比	102 億円	14.3 %
------	--------	------	--------	--------

営業利益は前期比102億円減益の615億円となった。

国内医療用医薬品が増収となったことに加え、APICの連結除外などにより、相対的に原価率の高いその他事業が大幅減収となったため、売上高は100億円の減収となったものの、売上総利益は4億円の増益となった。売上原価率は前期比1.6ポイント改善し36.5%となった。米国ヴァーテックスとのMP-424のライセンス契約変更に伴う一時金の支払い(105百万ドル)により研究開発費が831億円と大幅に増加(同+13.6%、+100億円)したことや、退職給付費用が増加したため、コスト削減の徹底や、APICの連結除外など減少要因があったものの、販売費及び一般管理費は1,955億円(同+5.7%、+106億円)となった。

経常利益	616 億円	対前期比	109 億円	15.1 %
------	--------	------	--------	--------

当期純利益	303 億円	対前期比	37 億円	14.0 %
-------	--------	------	-------	--------

経常利益は前期比109億円減益の616億円となったが、当期純利益は特別損益の大幅な改善により37億円増益の303億円となった。

為替差損が15億円(前期4億円)発生し、営業外損益が同7億円悪化した。また、HCV訴訟損失引当金について、期末日時点の提訴原告数および和解状況を勘案し、将来の給付金支給対象者見込数が従来予測より増加することが見込まれることから、追加で30億円の引当金繰入額を特別損失に計上した。さらに、遺伝子組換え人血清アルブミン製剤「メドウェイ注」の事業休止関連損失33億円、本社移転に伴う遊休資産の減損損失18億円、本社移転関連費用などの構造改革費用16億円などが発生、合わせて特別損失を108億円計上した。一方、前期にはHCV訴訟損失引当金繰入額(88億円)、投資有価証券評価損(66億円)、特別退職金(43億円)や減損損失(34億円)など258億円の特別損失を計上していたため、特別損益は同139億円改善した。

2. 2010年度 業績予想サマリー

売上高	3,800 億円	対前期比	247 億円	6.1 %
営業利益	550 億円	対前期比	65 億円	10.5 %
経常利益	550 億円	対前期比	66 億円	10.8 %
当期純利益	270 億円	対前期比	33 億円	10.8 %

3. 配当金

	2009年度		2010年度(予想)	
	2Q末	年間	2Q末	年間
1株当たり配当金(円)	14	28	14	28
配当性向	39.0%		42.4%	

(注) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額を除いた利益と年間配当金から算出している。

2009年度 連結決算について

1. 損益状況

損益実績

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	対前期比較		対予想比較		
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
売上高	414,752	404,747	10,005	2.4	408,000	3,253	0.8
売上原価	158,184	147,800	10,384	6.6	148,500	700	0.5
売上原価率	38.1%	36.5%			36.4%		
販管費	184,874	195,472	10,598	5.7	196,000	528	0.3
販管費比率	44.6%	48.3%			48.0%		
営業利益	71,694	61,475	10,219	14.3	63,500	2,025	3.2
経常利益	72,582	61,649	10,933	15.1	63,500	1,851	2.9
特別利益	1,202	85	1,117	92.9	100	15	15.0
特別損失	25,798	10,760	15,038	58.3	8,100	2,660	32.8
当期純利益	26,532	30,253	3,721	14.0	32,500	2,247	6.9

事業別売上高

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	対前期比較		対予想比較			主なポイント(対前期比較)
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%	
医薬品事業	387,223	395,734	8,511	2.2	398,100	2,366	0.6	国内医療用医薬品 +192億円 海外医療用医薬品 24億円 製造受託品 74億円 詳細は4ページ、主要製品売上高を参照
構成比	93.4%	97.8%			97.6%			
(国内)	(359,365)	(371,090)	(11,725)	(3.3)	(373,200)	(2,110)	(0.6)	
(海外)	(27,858)	(24,644)	(3,214)	(11.5)	(24,900)	(256)	(1.0)	
その他事業	27,529	9,013	18,516	67.3	9,900	887	9.0	APICの連結除外に伴う減少 化成品の減少
構成比	6.6%	2.2%			2.4%			
(国内)	(20,179)	(6,795)	(13,384)	(66.3)	(7,300)	(505)	(6.9)	
(海外)	(7,350)	(2,218)	(5,132)	(69.8)	(2,600)	(382)	(14.7)	
売上高合計	414,752	404,747	10,005	2.4	408,000	3,253	0.8	海外売上高比率 2008年度: 8.5% 2009年度: 6.6% 平均為替レート 2008年度: 1US\$ = 102.81円 2009年度: 1US\$ = 93.72円
構成比	100.0%	100.0%			100.0%			
(国内)	(379,544)	(377,885)	(1,659)	(0.4)	(380,500)	(2,615)	(0.7)	
(海外)	(35,208)	(26,862)	(8,346)	(23.7)	(27,500)	(638)	(2.3)	

売上原価 / 販売費及び一般管理費

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	対前期比較		対予想比較			主なポイント(対前期比較)
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%	
売上原価	158,184	147,800	10,384	6.6	148,500	700	0.5	APICの連結除外の影響等で売上原価率が改善
比率	38.1%	36.5%			36.4%			
販管費	184,874	195,472	10,598	5.7	196,000	528	0.3	
比率	44.6%	48.3%			48.0%			
研究開発費	73,122	83,081	9,959	13.6	84,000	919	1.1	MP-424のライセンス契約変更に伴う対価の支払いなどによる増加
比率	17.6%	20.5%			20.6%			
人件費	50,023	53,028	3,005	6.0	52,300	728	1.4	退職給付費用の増加など
販売促進費	11,679	11,954	275	2.4	11,600	354	3.1	
のれん償却額	10,055	10,137	82	0.8	10,100	37	0.4	
(注2)								
その他	39,995	37,272	2,723	6.8	38,000	728	1.9	広告宣伝費、旅費交通費など全般的に減少
総人件費	91,167	89,987	1,180	1.3	89,400	587	0.7	

(注1)2009年10月29日 2009年度第2四半期決算発表時の公表数値

(注2)合併に係るのれん1,505億円を15年償却

主要製品売上高

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度	2009年度	対前期比較		対予想比較		
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
医療用医薬品	3,819	3,908	88	2.3	3,930	22	0.6
国内医療用医薬品	3,354	3,546	192	5.7	3,563	17	0.5
レミケード	374	472	98	26.2	468	4	0.8
ラジカット	281	280	1	0.3	278	2	0.6
アンブラーグ	185	184	1	0.5	189	5	2.9
セレジスト	162	169	7	4.0	170	1	0.5
ウルソ	162	163	1	0.5	166	3	2.0
デバス	118	116	2	1.9	118	2	1.9
タナトリル	119	111	8	6.5	112	1	0.8
メインテート	102	110	8	7.8	110	0	0.4
ヘルベッサー	119	108	11	9.2	111	3	2.5
タリオン	104	106	2	2.3	122	16	13.0
ヴェノグロブリン - IH	110	96	14	12.5	103	6	6.3
リブル	87	80	7	7.7	84	4	4.6
サアミオン	81	72	8	10.4	73	1	1.3
ノイアート	57	57	1	1.1	58	1	2.0
オメブラゾン	57	55	2	3.1	56	1	1.7
ノバスタン	30	29	1	3.6	30	1	4.4
ワクチン	215	230	15	6.9	232	2	1.1
(内、ミールピック)	(118)	(118)	(1)	(0.4)	(125)	(7)	(5.6)
(内、インフルエンザ)	(67)	(64)	(3)	(4.9)	(65)	(1)	(2.1)
ジェネリック(注2)	40	85	46	114.9	86	1	1.1
海外医療用医薬品	253	228	24	9.6	235	7	2.9
ヘルベッサー	54	47	7	12.8	47	0	0.1
アルガトロバン (ノバスタン)	37	36	0	1.1	36	0	1.0
タナトリル	23	18	5	21.1	21	3	13.9
アンブラーグ	9	11	3	31.4	13	2	13.8
ワクチン	17	13	4	23.4	13	0	1.2
製造受託品(注3)	175	102	74	41.9	106	4	3.8
技術導出契約金等	37	31	6	15.5	26	5	21.2
一般用医薬品	53	50	3	5.8	51	1	2.5
医薬品事業	3,872	3,957	85	2.2	3,981	24	0.6
その他事業	275	90	185	67.3	99	9	9.0
売上高合計	4,148	4,047	100	2.4	4,080	33	0.8
(参考) 新型インフルエンザワクチン	-	88	88	-	非開示	-	-

(注1) 2009年10月29日 2009年度第2四半期決算発表時の公表数値

(注2) 田辺製薬販売の取扱品

(注3) 他社製品の医薬原体等

営業外損益

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	増減額	主なポイント
営業外収益	3,829	3,721	108	
受取利息	2,178	1,773	405	
受取配当金	810	742	68	
持分法による投資利益	100	490	390	APICの持分法適用関連会社化による増加など
受取賃貸料	169	236	67	
その他	572	480	92	
営業外費用	2,941	3,547	606	
支払利息	87	25	62	
為替差損	443	1,452	1,009	
固定資産除却損	981	459	522	
寄付金	399	360	39	
その他	1,031	1,251	220	

特別損益

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	増減額	主なポイント
特別利益	1,202	85	1,117	
投資有価証券売却益	154	85	69	
受取補償金	489	-	489	
企業立地促進事業補助金	400	-	400	
事業譲渡益	126	-	126	
固定資産売却益	23	-	23	
その他	10	-	10	
特別損失	25,798	10,760	15,038	
事業休止関連損失	-	3,296	3,296	メドウェイ事業休止に伴う費用
HCV訴訟損失引当金繰入額	8,800	3,000	5,800	当期)期末日時点の提訴原告数および和解状況を勘案し追加引当
減損損失	3,351	1,837	1,514	当期)本社移転など 前期)枚方事業所、名張第1・第2研修所閉鎖など
構造改革費用	342	1,583	1,241	当期)本社移転、研究機能移転費用など 前期)枚方事業所閉鎖、子会社統合関連費用など
投資有価証券評価損	6,635	233	6,402	前期)株価下落に伴う評価損
特別退職金	4,344	-	4,344	前期)早期退職に伴う特別退職金など
米国HIV等訴訟和解金	1,256	-	1,256	
製品回収関連損失	657	-	657	前期)メドウェイ自主回収等に係る費用
工場閉鎖損失	164	-	164	
その他	249	811	562	

法人税等

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	増減額	主なポイント
税金等調整前当期純利益	47,986	50,974	2,988	法定実効税率 調整)
法人税、住民税 及び事業税	27,409	24,841	2,568	2008年度 40.6% 2009年度 40.6%
法人税等調整額	6,355	2,796	3,559	のれん償却額 8.5% 8.0% 交際費等永久に損金に算入されない項目 4.3% 3.8% 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 2.8% 2.3% 受取配当金連結消去に伴う影響額 2.9% 2.0% 住民税均等割 0.2% 0.2% 試験研究費の特別控除 9.0% 10.7% 評価性引当額の増減 1.9% 2.4% 在外子会社の留保利益に係る繰延税金負債取崩 2.4% - その他 0.3% 0.8%
少数株主損益	400	1,324	1,724	税効果会計適用後の法人税等の負担率 43.9% 43.2%
当期純利益	26,532	30,253	3,721	

四半期業績推移(損益計算書)

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度					2009年度				
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績
売上高	1,082 26.1%	981 23.7%	1,190 28.7%	894 21.6%	4,148 100.0%	1,008 24.9%	975 24.1%	1,220 30.1%	845 20.9%	4,047 100.0%
(国内)	(992) (26.1%)	(881) (23.2%)	(1,101) (29.0%)	(822) (21.6%)	(3,795) (100.0%)	(945) (25.0%)	(902) (23.9%)	(1,156) (30.6%)	(775) (20.5%)	(3,779) (100.0%)
(海外)	(91) (25.8%)	(100) (28.3%)	(89) (25.3%)	(73) (20.6%)	(352) (100.0%)	(62) (23.3%)	(72) (27.0%)	(64) (23.8%)	(70) (26.0%)	(269) (100.0%)
医薬品事業	1,006 26.0%	903 23.3%	1,115 28.8%	848 21.9%	3,872 100.0%	982 24.8%	952 24.1%	1,196 30.2%	827 20.9%	3,957 100.0%
(国内)	(937) (26.1%)	(827) (23.0%)	(1,046) (29.1%)	(784) (21.8%)	(3,594) (100.0%)	(928) (25.0%)	(885) (23.8%)	(1,138) (30.7%)	(761) (20.5%)	(3,711) (100.0%)
(海外)	(69) (24.9%)	(76) (27.4%)	(69) (24.9%)	(63) (22.7%)	(279) (100.0%)	(54) (22.0%)	(68) (27.5%)	(58) (23.7%)	(66) (26.8%)	(246) (100.0%)
その他事業	76 27.7%	78 28.2%	75 27.1%	47 17.0%	275 100.0%	26 28.7%	22 24.6%	24 26.3%	18 20.4%	90 100.0%
(国内)	(55) (27.2%)	(55) (27.0%)	(55) (27.3%)	(37) (18.5%)	(202) (100.0%)	(18) (25.9%)	(17) (25.7%)	(18) (26.9%)	(15) (21.5%)	(68) (100.0%)
(海外)	(21) (29.0%)	(23) (31.4%)	(20) (26.7%)	(9) (12.9%)	(74) (100.0%)	(8) (37.4%)	(5) (21.0%)	(5) (24.6%)	(4) (17.0%)	(22) (100.0%)
売上原価	396	394	450	343	1,582	359	351	458	310	1,478
売上原価率	36.6%	40.1%	37.8%	38.3%	38.1%	35.6%	36.0%	37.5%	36.7%	36.5%
販売費及び 一般管理費	433 23.4%	500 27.1%	430 23.3%	486 26.3%	1,849 100.0%	423 21.6%	575 29.4%	437 22.4%	520 26.6%	1,955 100.0%
研究開発費	163 22.3%	213 29.2%	163 22.3%	192 26.3%	731 100.0%	162 19.4%	284 34.2%	165 19.9%	220 26.5%	831 100.0%
人件費	126 25.1%	127 25.4%	123 24.5%	125 25.0%	500 100.0%	127 23.9%	135 25.5%	131 24.7%	137 25.9%	530 100.0%
販売促進費	23 19.9%	34 29.1%	30 25.5%	30 25.5%	117 100.0%	23 19.2%	33 27.9%	29 24.5%	34 28.5%	120 100.0%
のれん 償却額	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	101 100.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	101 100.0%
その他	96 24.0%	101 25.3%	89 22.3%	113 28.4%	400 100.0%	86 23.2%	97 25.9%	87 23.3%	103 27.6%	373 100.0%
営業利益	254 35.4%	87 12.1%	310 43.3%	66 9.2%	717 100.0%	226 36.7%	49 7.9%	325 52.9%	15 2.5%	615 100.0%
経常利益	259 35.7%	92 12.7%	312 43.0%	62 8.5%	726 100.0%	231 37.4%	48 7.9%	325 52.7%	13 2.0%	616 100.0%
四半期(当期) 純利益	146 55.2%	17 6.5%	157 59.3%	56 21.0%	265 100.0%	114 37.6%	22 7.2%	191 63.0%	24 7.8%	303 100.0%

(注)各項目(売上原価を除く)の下段は進捗率を表示

四半期業績推移(主要製品売上高)

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度					2009年度				
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績
医療用医薬品	994 26.0%	887 23.2%	1,102 28.8%	837 21.9%	3,819 100.0%	971 24.8%	937 24.0%	1,184 30.3%	816 20.9%	3,908 100.0%
国内医療用医薬品	880 26.2%	771 23.0%	985 29.4%	718 21.4%	3,354 100.0%	889 25.1%	832 23.5%	1,102 31.1%	723 20.4%	3,546 100.0%
レミケード	89 23.7%	89 23.8%	109 29.2%	87 23.4%	374 100.0%	103 21.9%	124 26.3%	132 28.0%	112 23.8%	472 100.0%
ラジカット	73 26.1%	65 23.3%	84 30.0%	58 20.7%	281 100.0%	72 25.6%	67 24.0%	84 30.0%	57 20.4%	280 100.0%
アンブラーグ	49 26.5%	42 22.5%	54 29.1%	40 21.8%	185 100.0%	51 27.7%	44 23.9%	58 31.4%	31 17.0%	184 100.0%
セレジスト	43 26.7%	38 23.6%	47 28.7%	34 21.0%	162 100.0%	44 26.2%	40 23.7%	51 30.2%	34 19.9%	169 100.0%
ウルソ	43 26.4%	38 23.3%	46 28.6%	35 21.8%	162 100.0%	43 26.5%	39 24.2%	48 29.5%	32 19.7%	163 100.0%
デバス	31 26.4%	28 23.6%	34 28.4%	25 21.5%	118 100.0%	31 26.7%	28 24.0%	33 28.7%	24 20.6%	116 100.0%
タナトリル	34 28.6%	27 22.3%	35 29.0%	24 20.1%	119 100.0%	32 28.5%	26 23.4%	34 30.4%	20 17.7%	111 100.0%
ヘルベッサー	33 27.7%	27 22.9%	34 28.9%	24 20.5%	119 100.0%	30 28.0%	26 23.7%	32 29.5%	20 18.9%	108 100.0%
メインテート	27 26.6%	23 22.7%	29 28.8%	22 22.0%	102 100.0%	29 26.2%	26 23.4%	33 30.2%	22 20.2%	110 100.0%
ヴェノグロブリン - IH	29 26.4%	26 23.9%	34 31.0%	21 18.7%	110 100.0%	25 26.4%	24 24.9%	29 30.3%	18 18.4%	96 100.0%
タリオン	21 19.8%	15 14.1%	25 24.1%	44 42.0%	104 100.0%	24 22.3%	18 16.6%	30 28.4%	35 32.7%	106 100.0%
リプル	23 26.6%	20 22.7%	25 29.3%	19 21.5%	87 100.0%	22 27.5%	19 23.9%	23 28.5%	16 20.0%	80 100.0%
サアミオン	23 28.2%	19 23.2%	23 28.7%	16 19.9%	81 100.0%	21 28.3%	18 24.2%	22 29.7%	13 17.8%	72 100.0%
ノイアート	14 25.4%	14 24.0%	18 32.3%	10 18.3%	57 100.0%	14 24.3%	15 25.6%	18 32.1%	10 18.1%	57 100.0%
オメブラゾン	16 27.1%	13 22.7%	17 29.2%	12 21.0%	57 100.0%	15 27.6%	13 23.9%	17 30.3%	10 18.2%	55 100.0%
ノバスタン	8 26.3%	7 23.6%	9 30.2%	6 19.9%	30 100.0%	8 26.9%	7 24.7%	8 28.4%	6 20.0%	29 100.0%
ワクチン	54 25.3%	48 22.5%	73 33.8%	40 18.4%	215 100.0%	63 27.3%	68 29.5%	55 23.7%	45 19.4%	230 100.0%
(内、ミールピック)	(46) (38.8%)	(26) (22.1%)	(19) (16.0%)	(27) (23.1%)	(118) (100.0%)	(49) (41.7%)	(29) (24.5%)	(11) (9.2%)	(29) (24.6%)	(118) (100.0%)
(内、インフルエンザ)	(0) (0.2%)	(14) (20.4%)	(49) (72.8%)	(5) (7.0%)	(67) (100.0%)	(0) (0.0%)	(24) (38.0%)	(38) (59.0%)	(2) (3.1%)	(64) (100.0%)
ジェネリック(注2)	10 25.3%	9 23.7%	11 28.0%	9 23.1%	40 100.0%	18 21.1%	17 20.2%	28 33.0%	22 25.8%	85 100.0%
海外医療用医薬品	66 25.9%	68 27.1%	61 24.3%	57 22.6%	253 100.0%	53 23.0%	61 26.6%	56 24.4%	59 25.9%	228 100.0%
ヘルベッサー	15 27.4%	16 29.8%	11 20.5%	12 22.3%	54 100.0%	12 25.6%	13 27.4%	11 24.1%	11 22.8%	47 100.0%
アルガトロバン (ノバスタン)	10 26.9%	10 26.2%	8 21.5%	9 25.4%	37 100.0%	8 23.1%	9 24.8%	8 22.0%	11 30.2%	36 100.0%
タナトリル	7 29.1%	6 25.9%	5 23.5%	5 21.5%	23 100.0%	4 23.1%	6 30.6%	4 23.2%	4 23.1%	18 100.0%
アンブラーグ	2 23.2%	2 24.4%	3 33.5%	2 18.8%	9 100.0%	4 33.1%	2 20.7%	4 30.9%	2 15.4%	11 100.0%
ワクチン	5 29.6%	7 38.1%	3 17.1%	3 15.3%	17 100.0%	3 25.7%	3 25.5%	3 23.9%	3 24.9%	13 100.0%
製造受託品(注3)	37 21.1%	36 20.7%	48 27.6%	54 30.7%	175 100.0%	26 25.7%	27 26.4%	22 21.6%	27 26.4%	102 100.0%
技術導出契約金等	11 30.9%	11 30.8%	6 17.1%	8 21.1%	37 100.0%	3 10.8%	17 54.5%	4 12.6%	7 22.1%	31 100.0%
一般用医薬品	13 24.0%	16 30.2%	13 25.5%	11 20.3%	53 100.0%	11 22.9%	15 30.6%	13 25.2%	11 21.3%	50 100.0%
医薬品事業	1,006 26.0%	903 23.3%	1,115 28.8%	848 21.9%	3,872 100.0%	982 24.8%	952 24.1%	1,196 30.2%	827 20.9%	3,957 100.0%
その他事業	76 27.7%	78 28.2%	75 27.1%	47 17.0%	275 100.0%	26 28.7%	22 24.6%	24 26.3%	18 20.4%	90 100.0%
売上高合計	1,082 26.1%	981 23.7%	1,190 28.7%	894 21.6%	4,148 100.0%	1,008 24.9%	975 24.1%	1,220 30.1%	845 20.9%	4,047 100.0%

(注1)各項目の下段は進捗率を表示

(注2)田辺製薬販売の取扱品

(注3)他社製品の医薬原体等

2. 財務状況

資産・負債・純資産の状況

(単位: 百万円)

	2008年度末	2009年度末	構成比%	増減額	主なポイント
総資産	810,756	796,858	100.0	13,898	
流動資産	364,444	344,249	43.2	20,195	現金及び預金 11億円、有価証券 80億円、売上債権(注1) 19億円、たな卸資産 45億円、預け金 +463億円、短期貸付金 500億円、繰延税金資産 16億円、その他の流動資産 +6億円
固定資産	446,312	452,609	56.8	6,297	有形固定資産 146億円、無形固定資産 100億円、投資有価証券 +243億円、前払年金費用 +13億円、その他の投資等 +53億円
負債	144,536	120,045	15.1	24,491	
流動負債	89,150	77,767	9.8	11,383	仕入債務(注2) +15億円、未払金 7億円、未払法人税等 35億円、その他の流動負債 36億円
固定負債	55,386	42,278	5.3	13,108	繰延税金負債 4億円、退職給付引当金 28億円、スモン訴訟健康管理手当等引当金 4億円、HCV訴訟損失引当金 93億円
純資産	666,220	676,813	84.9	10,593	
株主資本	665,623	680,317	85.4	14,694	利益剰余金 +147億円
評価・換算差額等	13,161	9,847	1.2	3,314	その他有価証券評価差額金 +24億円
少数株主持分	13,758	6,343	0.8	7,415	

主要項目の増減

(単位: 百万円)

	2008年度末	2009年度末	増減額	主なポイント
現金及び預金	23,931	22,792	1,139	P9「キャッシュ・フロー計算書」参照
有価証券	67,680	59,726	7,954	譲渡性預金の減少、国債の増加など
売上債権(注1) (売上債権回転月数)	128,130 (3.71)	126,227 (3.74)	1,903 (0.03)	
たな卸資産	77,692	73,166	4,526	主にAPIC連結除外に伴う減少
預け金	-	46,271	46,271	三菱ケミカルホールディングスグループ金融会社 エムシー・エフエー向け預け金(短期貸付金より振替)
短期貸付金	50,410	426	49,984	預け金への振替による減少など
繰延税金資産	12,975	11,394	1,581	
その他の流動資産	3,626	4,247	621	
有形固定資産	131,797	117,218	14,579	設備投資 +84億円、APIC連結除外 86億円、減価償却 123億円、減損 18億円
無形固定資産	139,651	129,614	10,037	情報システム開発投資 +8億円、のれん償却 101億円、減価償却 10億円
投資有価証券	114,785	139,133	24,348	国債取得、時価評価、APIC連結除外に伴う株式計上による増加など
前払年金費用	35,475	36,730	1,255	
その他の投資等	24,604	29,914	5,310	
仕入債務(注2)	26,093	27,557	1,464	ワクチンの債務増加など
未払金	20,944	20,202	742	
未払法人税等	14,621	11,080	3,541	
その他の流動負債	20,053	16,488	3,565	
有利子負債	7,469	2,440	5,029	
短期借入金(注3)	7,299	2,410	4,889	主にAPIC連結除外に伴う減少
長期借入金(注4)	170	30	140	
繰延税金負債	11,673	11,267	406	
退職給付引当金	15,944	13,159	2,785	主にAPIC連結除外に伴う減少
HIV訴訟健康管理手当等引当金	1,728	1,627	101	
スモン訴訟健康管理手当等引当金	4,634	4,205	429	
HCV訴訟損失引当金	20,000	10,689	9,311	和解金の支払いに伴う取り崩し、給付金支給対象者の増加予測に伴う繰入など
その他の固定負債	1,377	1,331	46	
資本金	50,000	50,000	-	
資本剰余金	451,186	451,185	1	
利益剰余金	164,712	179,409	14,697	当期純利益 +303億円、配当金支払い 157億円
自己株式	275	277	2	
その他有価証券評価差額金	5,605	3,218	2,387	

(注1) 売上債権 = 受取手形 + 売掛金 (注2) 仕入債務 = 支払手形(除く営業外支払手形) + 買掛金

(注3, 4) 借入金...1年以内返済予定長期借入金は長期借入金に含めた。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	増減額	主なポイント
現金・現金同等物期首残高	160,096	116,903	43,193	
営業キャッシュ・フロー	50,540	23,923	26,617	
投資キャッシュ・フロー	74,508	61,227	13,281	有価証券の取得・売却 +27億円 (前期 85億円、当期 58億円) 定期預金の預入・払戻 80億円 (前期 8億円、当期 88億円) 長期預金の預入 36億円 (前期 +30億円、当期 6億円) 有形固定資産の取得・売却 +25億円 (前期 107億円、当期 82億円) 無形固定資産の取得 +7億円 (前期 17億円、当期 11億円) 投資有価証券の取得・売却 +138億円 (前期 561億円、当期 423億円)
財務キャッシュ・フロー	15,986	17,105	1,119	短期借入金の増減 10億円 (前期 +6億円、当期 4億円) 配当金の支払 6億円 (前期 152億円、当期 157億円)
現金・現金同等物に係る換算差額	3,239	274	3,513	
現金・現金同等物の増減額	43,193	54,135	10,942	
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	190	190	
現金・現金同等物期末残高	116,903	62,958	53,945	

* 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上の現金及び預金との関係(単位:百万円)

	2008年	2009年度
現金及び預金	23,931	22,792
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	1,351	9,550
取得日から3ヵ月以内に償還期限が到来する有価証券	44,000	3,100
短期貸付金に含まれる現金及び現金同等物	50,323	346
預け金に含まれる現金及び現金同等物	-	46,270
現金及び現金同等物	116,903	62,958

設備投資 / 情報システム開発投資

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	増減額
設備投資額 / 発生ベース	12,175	8,378	3,797
システム投資額 / 発生ベース	1,711	815	896

< 2009年度の主な取得設備 >

田辺三菱製薬	41億円
・横浜事業所研究棟建設	(11億円)
田辺三菱製薬工場	30億円
・鹿島工場包装設備	(6億円)
三菱製薬(広州)	3億円
・輸液バッグ生産設備	(3億円)

< 2009年度の主な情報システム開発投資 >

田辺三菱製薬	4億円
--------	-----

減価償却費

(単位:百万円)

	2008年度	2009年度	増減額
有形固定資産	14,581	12,283	2,298
無形固定資産	1,077	1,008	69

3. 関係会社

関係会社数

	2008年度末	2009年度末	増減数	特記事項
連結子会社数	30	27	3	増加)ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ 減少)エービーアイ コーポレーション、 ウェルファイドサービス、アルケマ吉富、 タナベ ファーマ デベロップメント アメリカ
非連結子会社	5	6	1	増加)広東田辺医薬、興栄商事 減少)長生薬品
関連会社数	5	4	1	増加)エービーアイ コーポレーション、 アルケマ吉富 減少)小倉美術印刷、広東田辺医薬、興栄商事
合計	40	37	3	

主要連結子会社の財務数値・従業員数

(単位:百万円)

項目	会社名	期	吉富薬品	ベネシス	田辺三菱製薬工場	三菱製薬(広州)	天津田辺製薬
			3月末	3月末	3月末	12月末	12月末
資本金		2009年度末	385	3,000	1,130	1,269	1,261
		2008年度末	385	3,000	1,130	1,269	1,261
議決権 所有割合		2009年度末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%
		2008年度末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%
総資産		2009年度末	6,384	29,018	57,937	4,959	1,803
		2008年度末	6,203	29,181	47,593	4,565	1,856
純資産		2009年度末	5,501	24,730	37,059	3,894	1,398
		2008年度末	4,848	24,508	29,858	3,430	1,334
売上高		2009年度	6,219	18,714	53,804	3,441	2,016
		2008年度	6,476	17,311	42,485	3,677	2,049
営業利益		2009年度	1,881	1,668	2,580	565	156
		2008年度	2,142	2,806	1,924	646	177
経常利益		2009年度	1,883	1,612	2,504	558	157
		2008年度	2,156	2,780	1,770	653	174
純損益		2009年度	986	1,087	1,434	426	110
		2008年度	1,151	1,730	1,302	504	88
研究開発費		2009年度	-	2,346	1,153	23	17
		2008年度	-	2,710	743	22	3
有形固定資産 減価償却費		2009年度	-	1,224	4,016	111	61
		2008年度	1	1,409	3,507	104	67
従業員数		2009年度末	243	569	1,115	430	321
		2008年度末	237	480	822	406	330

その他の連結子会社一覧

(2010年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	MPロジスティクス(株)	95	65.0 ()	3月末
2	(株)パイファ	7,500	51.0 ()	3月末
3	田辺製薬吉城工場(株)	400	100.0 ()	3月末
4	田辺製薬販売(株)	169	92.7 (7.7)	3月末
5	(株)田辺アールアンドディー・サービス	44	100.0 ()	3月末
6	田辺総合サービス(株)	90	100.0 ()	3月末
7	ウェルファイド・インターナショナル・コーポレーション	US\$36,816,000	100.0 ()	12月末
8	アルファ・テラピュティック・コーポレーション	US\$50,000,000	100.0 (100.0)	12月末
9	MP ヘルスケア ベンチャー マネジメント	US\$100	65.0 ()	12月末
10	ミツビシ タナベ ファーマ ホールディングス アメリカ	US\$166	100.0 ()	12月末
11	ミツビシ タナベ ファーマ ディベロップメント アメリカ	US\$100	100.0 (100.0)	12月末
12	タナベ リサーチ ラボラトリーズ U.S.A.	US\$3,000,000	100.0 (100.0)	12月末
13	タナベ U.S.A.	US\$1,400,000	100.0 (100.0)	12月末
14	ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ	US\$100	100.0 (100.0)	12月末
15	三菱製薬研発(北京)有限公司	US\$1,000,000	100.0 ()	12月末
16	台湾田辺製薬股份有限公司	NT\$90,000,000	65.0 ()	12月末
17	台田薬品股份有限公司	NT\$20,000,000	65.0 ()	12月末
18	タナベ インドネシア	US\$2,500,000	99.6 ()	12月末
19	ミツビシ タナベ ファーマ コリア	KRW 2,100,000,000	100.0 ()	12月末
20	ミツビシ ファーマ ヨーロッパ	£4,632,000	100.0 ()	12月末
21	ミツビシ ファーマ ドイツ	EUR 25,000	100.0 (100.0)	12月末
22	タナベ ヨーロッパ	EUR 260,330	100.0 ()	12月末

持分法適用非連結子会社一覧

(2010年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	長生堂製薬(株)	340	51.0 ()	12月末
2	ホシエヌ製薬(株)	75	51.0 (51.0)	3月末
3	広東田辺医薬有限公司	7,000千元	100.0 ()	12月末
4	興栄商事(株)	10	100.0 ()	7月末

持分法適用関連会社一覧

(2010年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	(株)エービーアイ コーポレーション	4,000	47.7 ()	3月末
2	サンケミカル(株)	342	48.3 ()	3月末
3	サンテラボ・タナベ シミイ	EUR 1,600,000	50.0 ()	12月末

. 2010年度 業績予想について

損益予想

(単位: 億円) (億円未満四捨五入)

	2009年度 通期実績	2010年度 通期予想	増減額	増減率%
売上高	4,047	3,800	247	6.1
営業利益	615	550	65	10.5
経常利益	616	550	66	10.8
当期純利益	303	270	33	10.8

2010年度 業績予想について

2010年度は、本年4月に実施された薬価改定の影響に加え、今般のメドウェイに関する一連の問題による行政処分の影響を受け、厳しい状況となることが予想されます。今年度の業績については、不透明な要素もありますが、現時点では大幅な減収減益を予想しております。

なお、行政処分の影響により、特に年度前半の見通しについて不確定要素が大きいため、現時点では事業別売上高、売上原価、販売費及び一般管理費、主要製品売上高等の予想、および上期業績予想の開示を控えさせていただきます。今後、速やかに情報収集に努め、業績への影響を精査した上で、改めて開示させていただきます。

・新製品開発状況について（2010年5月12日現在）

1．国内開発状況

新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
TA-8317 / アクレフ (フェンタニルクエン酸塩)	麻薬鎮痛剤 (癌性突出痛・口腔粘膜吸収剤)	申請中 (2008年8月)	米:セファロン	
MP-424 (テラプレビル)	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎)	フェーズ3	米:ヴァーテックス	
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ3	自社	
APTA-2217 (ロフルミラスト)	PDE4阻害剤 (気管支喘息)	フェーズ2/3	スイス:ナイコメッド	共同開発 (スイス:ナイコメッド)
	(COPD)	フェーズ2/3		
CNTO148 (ゴリムマブ)	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (関節リウマチ)	フェーズ2/3	米:セントコア	共同開発 (ヤンセンファーマ)
BK-4SP	ワクチン (百日せき、ジフテリア、破傷風及び急性灰白随 炎の予防)	フェーズ3	一般財団法人 阪大微生物病研究会	共同開発 (一般財団法人 阪大微生物病研究会)
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症*)	フェーズ2	自社	共同開発 (ノバルティスファーマ)
MP-214 (カリブラジン)	D3/D2拮抗剤 (統合失調症)	フェーズ2	ハンガリー: ゲデオンリヒター	
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
MP-435	C5a拮抗剤 (関節リウマチ)	フェーズ1	自社	
MT-4666	7nACh受容体作動薬 (アルツハイマー病)	フェーズ1	米:エンヴィヴォ	

*: 希少疾病用医薬品指定

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
献血ヴェノグロブリン - IH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	ヒト免疫グロブリンG (免疫グロブリンG2欠乏症)	申請中 (1997年12月)	自社	
	(多発性筋炎・皮膚筋炎*)	申請中 (2003年5月)		
	(低・無ガンマグロブリン血症:用量の追加)	申請中 (2008年3月)		
	(全身性強皮症)	フェーズ3		
	(重症筋無力症*)	フェーズ3		
レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (潰瘍性大腸炎)	申請中 (2009年6月)	米:セントコア	
	(クローン病:用法・用量の変更)	フェーズ3		
バズクロス (メシル酸バズフロキサシン)	ニューキノロン系合成抗菌製剤 (重症難治症例:用量の追加) (敗血症・肺炎球菌)	申請中 (2009年6月)	富山化学工業	共同開発 (富山化学工業)
オメプラゾン (オメプラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (ヘリコバクター・ピロリ除菌治療の補助に伴う3 疾患 胃MALTリンパ腫 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃 特発性血小板減少性紫斑病)	申請中 (2009年9月)	英:アストラゼネカ	共同申請
モディオダール (モダフィニル)	精神神経用剤 (閉塞性睡眠時無呼吸症候群)	フェーズ3	米:セファロン	共同開発 (アルフレッサファーマ)
ラジカット (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (筋萎縮性側索硬化症*)	フェーズ3	自社	
メインテート (ピソプロロール)	選択的 1遮断剤 (慢性心不全)	フェーズ3	独:メルク	
コレバイン (コレスチミド(JAN))	胆汁酸分泌制御 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
	リン吸収阻害作用 (高リン血症)	フェーズ1		

*: 希少疾病用医薬品指定

2. 海外開発状況

新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
MCI-196 (コレステラン(INN))	リン吸収阻害剤 (高リン血症)	米国、欧州	フェーズ3	自社	
MP-146	尿毒症毒素吸着剤 (慢性腎臓病)	米国、欧州	フェーズ3	クレハ	
MCC-257	神経栄養因子賦活剤 (糖尿病性神経障害)	米国	フェーズ2	自社	
MT-2832	ビタミンD誘導体 (二次性副甲状腺機能亢進症)	米国・カナダ	フェーズ2	カナダ: サイトクローム	
MCI-186 (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (脳梗塞急性期)	欧州	フェーズ2	自社	
MP-513 (テネリグリプチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	欧州	フェーズ2	自社	
		米国	フェーズ1		
TA-5493	p38阻害剤 (関節リウマチ、乾癬)	欧州	フェーズ1	自社	
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン (安定化剤)	米国	フェーズ1	自社	
TA-8995	CETP阻害剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ1	自社	
MP-124	PARP阻害剤 (脳梗塞急性期)	米国・カナダ	フェーズ1	自社	
MP-136	PPAR 作動剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ1	自社	

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))	欧州	申請準備中	自社	

3. 導出品の開発状況

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	導出先
FTY720 (フィンゴリド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体調節剤 (多発性硬化症)	米国、欧州	申請中 (2009年12月)	スイス:ノバルティスファーマ
TA-1790 (アバナフィル)	PDE5阻害剤 (勃起不全)	米国	フェーズ3	米:ヴィーヴァス
		韓国	フェーズ3	韓:チョンウェイ
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤 (糖尿病) (肥満)	米国、欧州	フェーズ3	米:ジョンソン・エンド・ジョンソン
		米国、欧州	フェーズ2	
T-0047 (フィラテグラスト)	細胞接着阻害剤[4 7/ 4 1阻害剤] (多発性硬化症)	欧州	フェーズ2	英:グラクソ・スミスクライン
MKC-242	セロトニン1A作動剤 (不眠症)	米国	フェーズ2	米:メディシノバ
TA-2005 (カルモテロール)	長時間作用性 2刺激剤 (喘息、COPD)	欧州	フェーズ2	伊:キエージー
MKC-231	神経新生促進剤 (うつ病 / 不安障害)	米国	フェーズ2	米:ブレインセルズ
Y-39983	ROCK阻害剤 (緑内障)	日本	フェーズ2	日:千寿製薬
MT-210	セロトニン2A / シグマ2拮抗剤 (統合失調症)	欧州	フェーズ2	仏:クレナイック
sTU-199 (テナトブラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (胃食道逆流症)	欧州	フェーズ1	仏:ネグマ(シデム)
TT-138	3作動剤 (頻尿 / 尿失禁)	米国	フェーズ1	米:メディシノバ

4 . 2009年度第3四半期決算発表時点（2010年1月28日）からの変更点

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	前回発表時点	2010年05月12日現在
レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (強直性脊椎炎)	国内 申請中 (2008年9月)	国内 承認 (2010年4月)
BK-4SP	ワクチン (百日せき、ジフテリア、破傷風及び急性灰白 随炎の予防)	記載なし	国内 フェーズ3
MT-4666	7nACh受容体作動薬 (アルツハイマー病)	記載なし	国内 フェーズ1
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤 (気管支喘息)	国内 フェーズ3	開発中止 (削除)
	(アレルギー性鼻炎)	国内 フェーズ2	
TA-6666	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	米国 フェーズ2	開発中止 (削除)
	(2型糖尿病)	国内 フェーズ1	
TA-5538	NK-1拮抗剤 (過活動膀胱)	欧州 フェーズ2	開発中止 (削除)
MCC-135 (カルダレット)	心筋内カルシウム調節剤 (心筋梗塞)	米国、欧州 フェーズ2	開発中止 (削除)

5. 新製品開発状況補足資料 (2010年5月12日現在)

国内 新規化合物

TA-8317 / アクレフ (フェンタニルクエン酸塩)	フェンタニルを口腔内の粘膜から速やかに吸収させることにより、癌に伴う突発性の疼痛に対して鎮痛効果を示す頓用剤。欧米では既に市販されている。セファロン(米)より導入。2008年8月申請。
MP-424 (テラプレビル)	C型肝炎ウイルスのプロテアーゼNS3/4A阻害による経口投与可能なC型慢性肝炎治療剤。ヴァーテックス(米)より導入。フェーズ3。
MP-513 (テネグリプチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。フェーズ3。
APTA-2217 (ロフルミラスト)	優れた抗炎症作用を有する、経口投与可能な呼吸器疾患治療剤。海外臨床試験で喘息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の両方に対して有効性が認められている。ナイコメッド(スイス)より導入。喘息でフェーズ2/3、COPDでフェーズ2/3。
CNT0148 (ゴリムマブ)	抗TNF モノクローナル抗体。セントコア(米)より導入。皮下注射剤の関節リウマチ治療薬として、ヤンセンファーマと共同でフェーズ2/3。
BK-4SP	百日せき菌の抗原(PT、FHA)防御抗体、ジフテリアトキソイド、破傷風トキソイド、および不活化ポリオウイルスの混合ワクチン。 一般財団法人阪大微生物病研究会と共同開発。フェーズ3。
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	(2007年9月、希少疾病用医薬品指定)スフィンゴシン1リン酸受容体モジュレーター。海外では導出先のノバルティスファーマが多発性硬化症を対象に欧米で申請した。国内ではノバルティスファーマと共同で多発性硬化症を対象にフェーズ2。
MP-214 (カリプラジン)	ドパミンD3/D2受容体拮抗作用を有する。ゲデオニリター(ハンガリー)より導入。 統合失調症を対象にフェーズ2。
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。2型糖尿病でフェーズ2。
MP-435	補体成分C5a受容体拮抗作用を有する経口の免疫調節剤。関節リウマチ治療を対象にフェーズ1。
MT-4666	7ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)アゴニスト。エンヴィヴォ(米)より導入。 アルツハイマー病を対象にフェーズ1。

国内 効能追加

<p>献血ヴェノグロブリン - IH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)</p>	<p>(免疫グロブリンG2欠乏症)申請中。 (多発性筋炎・皮膚筋炎(2000年1月、希少疾病用医薬品指定))申請中。当局の指示により、ステロイド治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎患者に対するヴェノグロブリンの有効性を確認するための追加臨床試験を実施した。2009年12月に総括報告書をPMDAへ提出した。 (低・無ガンマグロブリン血症:用量追加) 日本小児感染症学会から当局に要望書が提出されたことを受け、適応外通知に基づき申請中。 (びまん型全身性強皮症)国内の臨床研究によって疾患の主要因である皮膚症状の改善に対してIVIgの有効性が見出され、海外においても有効性が報告されている。フェーズ3。 (重症筋無力症(2009年9月、希少疾病用医薬品指定))国内において血液浄化療法群を対照としたフェーズ3。</p>
<p>レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))</p>	<p>(潰瘍性大腸炎)欧米で実施された検証的試験で潰瘍性大腸炎にもレミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。国内においても潰瘍性大腸炎患者を対象に2009年6月申請。 (クローン病)レミケードの増量効果を確認するため、維持療法中に効果不十分となった患者を対象にフェーズ3。</p>
<p>バズクロス (メシル酸バズフロキサシン)</p>	<p>(重症難治症例:用量の追加)(敗血症・肺炎球菌)注射用ニューキノロン系抗菌製剤。2009年6月申請。</p>
<p>オメプラゾン (オメプラゾール)</p>	<p>プロトンポンプ阻害剤とアモキシシリン水和物、クラリスロマイシンまたはメトロニダゾールを用いた3剤併用によるヘリコバクター・ピロリ除菌治療の補助に伴う3疾患、胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、特発性血小板減少性紫斑病について、2009年9月に9社*共同で、公知の文献等を科学的根拠として申請。</p>
<p>モディオダール (モダフィニル)</p>	<p>(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)2008年5月に共同開発会社のアルフレッサファーマが申請したが、当局との相談の結果、追加データ取得のため、追加臨床試験フェーズ3を実施中。</p>
<p>ラジカット (エダラボン)</p>	<p>(筋萎縮性側索硬化症(2005年6月、希少疾病用医薬品指定))フェーズ3。</p>
<p>メインテート (ピソプロロール)</p>	<p>(慢性心不全)欧州で実施された大規模臨床試験(CIBIS 試験)でNYHA ~ 度の慢性心不全患者の延命効果を高めることが明らかにされた。国内では慢性心不全の効能追加のための臨床試験を実施し、2006年4月に申請した。その後当局との相談の結果、追加臨床試験が必要となりフェーズ3。</p>
<p>コレバイン (コレチミド(JAN))</p>	<p>(2型糖尿病)フェーズ2。 (高リン血症)フェーズ1。</p>

*9社: 武田薬品工業株式会社、アストラゼネカ株式会社、田辺三菱製薬株式会社、エーザイ株式会社、協和発酵キリン株式会社、アステラス製薬株式会社、大正製薬株式会社、アボット ジャパン株式会社、塩野義製薬株式会社

海外 新規化合物

MCI-196 (コレステラン(INN))	陰イオン交換樹脂。欧米で腎透析患者における高リン血症を対象にフェーズ 3。日本では、高コレステロール血症治療薬として製品名コレバインで販売中。
MP-146	2006年11月にクレハから導入した経口の球状吸着炭。慢性腎臓病患者を対象に欧州、北米、南米においてフェーズ 3。日本では製品名クレメジンで第一三共が販売中。
MCC-257	神経栄養因子の分泌促進及び作用増強による糖尿病性神経障害治療薬。米国でフェーズ 2。
MT-2832	2008年7月にサイトクロマ(カナダ)から導入。ビタミンDシグナル伝達を強力に活性化すると同時に、ビタミンDの不活性化をつかさどる酵素CYP24に分解されにくい新しいタイプのビタミンD誘導体。カナダにおいて慢性腎不全患者を対象に二次性副甲状腺機能亢進症でフェーズ 2。
MCI-186 (エダラボン)	世界初の脳保護剤(フリーラジカル消去剤)。脳梗塞急性期を対象に欧州でフェーズ 2。日本では製品名ラジカットで販売中。
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。米国でフェーズ 1、欧州でフェーズ 2。
TA-5493	p38 MAP キナーゼ阻害作用により、TNF などの種々のサイトカイン産生を抑制し、抗炎症作用を示す。欧州で関節リウマチ、乾癬を対象にフェーズ 1。
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン。米国で安定化剤でフェーズ 1。
TA-8995	CETP阻害により、HDL-Cを増加させLDL-Cを低下させる脂質異常症治療剤。欧州でフェーズ 1。
MP-124	PARP酵素阻害により神経細胞の傷害保護作用を示す。米国・カナダで脳梗塞急性期を対象にフェーズ 1。
MP-136	PPAR 作動剤。欧州において脂質異常症でフェーズ 1。

海外 効能追加

MCI-9038 (アルガトロバン)	(ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))ドイツ、オーストリア、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、オランダ、アイスランド、イタリアの8カ国で承認取得。欧州の他国への申請を準備中。
-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

導出品

FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体に作用することにより、リンパ球をリンパ組織に留まらせる。導出先のノバルティスファーマが多発性硬化症を対象に欧米で申請した。米国食品医薬品局(FDA)は本剤を優先審査品目に指定。
TA-1790 (アバナフィル)	即効性で、副作用の少ない勃起障害治療剤として創製。米国でヴィーヴァスによりフェーズ3。韓国でチョンウェイによりフェーズ3。
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2選択的阻害薬。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。ジョンソン・エンド・ジョンソンにより欧州・米国で糖尿病を対象にフェーズ3。肥満を対象にフェーズ2終了。
T-0047 (フィラテグラスト)	白血球が炎症部位に浸潤する過程を抑える細胞接着阻害剤。同じ4インテグリン受容体をターゲットとするモノクローナル抗体である多発性硬化症治療剤生物製剤「タイサプリ(一般名ナリツマブ)」(バイオジェンアイデックおよびエラン)の使用患者さんによる有害事象により、米国食品医薬品局(FDA)が予防的な手段として臨床試験を中断していたが、2006年にタイサプリの販売再開が承認された。T-0047の臨床試験はグラクソ・スミスクラインによって欧州ほかでフェーズ2を再開した。
MKC-242	セロトニン1A受容体の作動薬で、依存性が生じる可能性が低く即効性が期待される不安症やうつ病などの精神障害治療剤。米国メディシノバで不眠症を対象にフェーズ2。
TA-2005 (カルモテロール)	喘息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の治療用薬で、選択的、早期作用性、長時間作用性2刺激剤。欧州でキエージーによりフェーズ2。
MKC-231	神経新生促進剤。米国でブレインセルズによりフェーズ2。
Y-39983	血管平滑筋を弛緩させるROCK(Rho-キナーゼ)阻害作用をもつ薬剤。国内で千寿製薬によりフェーズ2。
MT-210	セロトニン2A / シグマ2拮抗剤。仏:キレナイックによりフェーズ2。
sTU-199 (テナトブラゾール)	国内で開発していたTU-199の光学異性体で、ネグマ(仏)へ導出。欧米で実施されたフェーズ1試験のPK/PDにおいて、長い血中濃度半減期より1日1回投与で夜間における優れた胃酸コントロールが確認され、早期の症状改善や治癒が期待されている。子会社のシテムが胃食道逆流症を対象に、欧州でフェーズ1。
TT-138	3受容体作動作用を持つ頻尿・尿失禁治療剤。米国でメディシノバによりフェーズ1。

< 参考 > 主要医療用医薬品補足資料

レミケード (2002年5月発売) 【薬効】抗ヒトTNF モノクローナル抗体 (関節リウマチ、活動期クローン病、ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、乾癬、強直性脊椎炎)

炎症性サイトカインであるTNF をターゲットとした抗TNF 抗体で、早く強力な効果と、1回の投与で2カ月間効果が持続するという点が特長である。2007年1月にベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎の効能が追加され、同年11月にクローン病に対する維持療法が承認された。2009年7月に関節リウマチにおいて投与量の増量や投与間隔の短縮ならびに関節破壊の抑止効果が承認された。さらに、乾癬の効能・効果追加の承認が2010年1月、2010年4月には強直性脊椎炎の効能・効果が承認された。
オリジン：(米)セントコア

ラジカット (2001年6月発売) 【薬効】フリーラジカルスカベンジャー (脳保護剤)

我が国で開発された世界初の脳保護剤 (フリーラジカルスカベンジャー) であり、脳梗塞急性期の患者における神経候、日常生活動作障害、機能障害 (退院時の後遺症の程度) を改善する。脳梗塞の3つの主要病型 (ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症) いずれにも適応がある。発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内。2010年1月には点滴静注バッグが承認された。

アンブラーグ (1993年10月発売) 【薬効】5-HT₂ブロッカー (抗血小板剤)

閉塞性動脈硬化症 (ASO) など慢性動脈閉塞症に対する治療薬 (経口抗血小板薬) である。セロトニンにより増強される血小板凝集、血管収縮、血管平滑筋細胞増殖を抑制することにより慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛、冷感等の虚血性諸症状を改善する。特に側副血行路の血流を改善する。2007年8月に高齢者にも服用しやすい小型化錠が承認された。

セレジスト (2000年9月発売) 【薬効】脊髄小脳変性症治療剤

脊髄小脳変性症による運動失調に対し、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン (TRH) が有効であることは既に確認されていたが、これまでは注射剤のみであった。自社技術によりTRHを誘導体化し、経口投与を世界で初めて可能にした。2009年6月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、10月に発売した。

ウルソ (1962年7月発売) 【薬効】肝・胆・消化機能改善剤

本剤の主成分ウルソデオキシコール酸 (UDCA) は、古くから消化器症状の改善に用いられてきた熊胆 (クマノイ) が薬効の起源であり、ヒト生体内に存在する胆汁酸の一つである。本剤は肝細胞を保護する作用をもち、慢性肝疾患・C型慢性肝疾患における肝機能の改善、胆石の溶解等の効能をもち。

デパス (1984年3月発売) 【薬効】精神安定剤

国内で最も汎用される抗不安薬。強力な抗不安作用に筋緊張緩解作用、鎮静・催眠作用を併せ持つため、心身症、神経症だけでなく、腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛、うつ病ならびに睡眠障害にも効果が認められている。

タナトリン (1993年12月発売) 【薬効】アンジオテンシン変換選択性阻害剤 (高血圧症治療剤)

確実な血圧降下作用および高い臓器保護作用を有しながら、この種の薬剤に一般的な副作用である空咳の発生頻度が少ない。2002年には日本で初めて1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症への効能を追加した。

ヘルベッサー (1974年2月発売) 【薬効】カルシウム拮抗剤 (狭心症・高血圧症治療剤)

世界110カ国以上で使用されている代表的なカルシウム拮抗剤。血圧降下作用に加え、心拍数を抑えて心臓の負担を軽減し、冠血管拡張作用により酸素供給を増加させる。狭心症や高血圧症において心臓をやさしく保護する効果がある。

メインテート (1990年11月発売) 【薬効】選択的 1遮断剤 (高血圧症・狭心症・不整脈治療剤)

世界85カ国以上で使用されている代表的な 1遮断剤。極めて高い 1選択性と良好な薬物動態を示し、高い有効性と安全性とともにエビデンスに基づいた心保護効果を有する。
オリジン：(独)メルクKGaA

ヴェノグロブリン-IH (1992年1月発売) 【薬効】血漿分画製剤 (液状・静注用人免疫グロブリン製剤)

国内の献血血液を原料として製造された人免疫グロブリン製剤。免疫グロブリンの持つ4つの作用 (オプソニン作用、毒素やウイルスの中和作用、免疫溶菌作用、抗体依存性細胞傷害) により、抗菌薬と併用することで重症感染症に対する効果を発揮する。

< 参考 > 主要医療用医薬品補足資料

タリオン (2000年10月発売)【薬効】アレルギー性疾患治療剤

抗ヒスタミンH1作用の発現が早くみられ、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒に即効性を発揮する。一方で、眠気の発現頻度が低い。2007年3月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、7月に発売した。
オリジン：宇部興産 開発：共同

リブル (1988年11月発売)【薬効】プロスタグランジンE1製剤

世界初の静注用プロスタグランジンE1のDDS(ドラッグ・デリバリー・システム)製剤。血管に直接作用し拡張させることにより慢性動脈閉塞症、糖尿病における皮膚潰瘍等の末梢循環障害を改善する。DDS化によりPGE1の治療上の有用性を最大に引き出し、投与時のデメリットを最小化することに成功した。

サアミオン (1988年6月発売)【薬効】脳循環・代謝改善剤

脳循環・代謝改善作用を有する薬剤。脳梗塞後遺症の治療薬として処方されている。1998年に厚生省によって行われた再評価において、有用性が再確認されている。また、「脳卒中治療ガイドライン2004」において、脳梗塞慢性期の治療薬として推奨されている。
オリジン：(米)ファイザー

ノイアート (1987年6月発売)【薬効】血漿分画製剤 (血液凝固阻止剤)

国内の献血血液を原料とした人アンチトロンビン 製剤。人アンチトロンビン を高純度に含有するDIC治療剤である。トロンビンをはじめ幅広くセリンプロテアーゼ活性を阻害することにより強力な抗凝固作用を発揮する。

オメプラゾン (1991年4月発売)【薬効】プロトンポンプインヒビター (消化性潰瘍、胃食道逆流症治療剤)

胃酸分泌の最終過程であるプロトンポンプの働きを阻害することにより、強力かつ持続的に胃酸分泌を抑制する。世界初のプロトンポンプインヒビターである。消化性潰瘍、十二指腸潰瘍、胃食道逆流症に優れた効果をもつ。さらに、2007年5月に非びらん性胃食道逆流症が、8月にヘリコバクターピロリの二次除菌療法に係る用法・用量追加が承認された。
オリジン：(英)アストラゼネカ

ノバスタン (1990年6月発売)【薬効】選択的抗トロンピン剤

化学合成された選択的抗トロンピン剤。1990年6月に上市され、「慢性動脈閉塞症における四肢潰瘍、安静時疼痛ならびに冷感の改善」、「脳血栓症急性期に伴う神経症候、日常生活動作の改善」、「先天性アンチトロンピン (AT) 欠乏患者における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止」に使用されている。2008年7月に「ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) 型における血栓症の発症抑制」についても効能を取得した。海外では、2000年に米国FDAにより「ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) における血栓症の予防及び治療」の効能・効果が承認され、以来、海外9カ国において同効能・効果で承認されている。

ミールビック (2005年12月発売)【薬効】麻しんおよび風しんの予防

麻しんと風しんの予防接種が同時に行え、接種者の負担が軽減できる乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン。麻しんおよび風しんの予防接種率の向上が期待される。
製造：阪大微生物病研究会

その他

1. 株式の状況

発行済株式数

	2010年3月末	2009年3月末
期末発行済株式総数	561,417,916	561,417,916
期末自己株式数	256,440	252,197
期末発行済株式数	561,161,476	561,165,719
期中平均自己株式数	253,814	225,436
期中平均株式数	561,164,102	561,192,480

配当金推移

	2007年度(注1)	2008年度(注2)	2009年度(注2)	2010年度予想(注2)
1株当たり年間配当金(円)	26	28	28	28
配当性向(%)	44.0	43.0	39.0	42.4

(注1) 配当金は、田辺製薬の中間配当金(13円)と田辺三菱製薬の期末配当金(13円)を用いている。また、配当性向は田辺三菱製薬の下期の当期純利益からのれん償却額を除いた利益と期末配当金から算出している。

(注2) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額を除いた利益と年間配当金から算出している。

大株主の状況

順位	株主名	2010年3月末		2009年3月末		
		持株数 千株	持株比率	(順位)	持株数 千株	持株比率
1	三菱ケミカルホールディングス	316,320	56.34%	(1)	316,320	56.34%
2	日本マスタートラスト信託銀行	32,043	5.71%	(3)	25,355	4.52%
3	日本トラスティ・サービス信託銀行	25,237	4.50%	(2)	28,293	5.04%
4	日本生命保険	15,875	2.83%	(4)	16,268	2.90%
5	ニプロ	8,030	1.43%	(7)	8,030	1.43%
6	三菱東京UFJ銀行	7,254	1.29%	(5)	12,089	2.15%
7	ジェービー モルガン チェース バンク 385147	6,850	1.22%	(-)	-	-
8	東京海上日動火災保険	5,218	0.93%	(8)	5,218	0.93%
9	資産管理サービス信託銀行	4,970	0.89%	(10)	4,215	0.75%
10	田辺三菱製薬従業員持株会	4,007	0.71%	(11)	3,754	0.67%

所有者別株式数分布状況

	2010年3月末			2009年3月末		
	株主数 名	株式数 千株	構成比	株主数 名	株式数 千株	構成比
金融機関	71	110,681	19.75%	72	113,941	20.33%
外国法人等	402	79,225	14.13%	380	72,756	12.98%
個人・その他	9,724	28,289	5.05%	10,930	30,342	5.41%
その他の法人	220	341,060	60.85%	239	341,051	60.85%
金融商品取引業者	31	1,239	0.22%	44	2,383	0.43%
合計	10,448	560,494	100.00%	11,665	560,473	100.00%
単元未満株式の状況	-	923	-	-	944	-

* 1単元の株式数は1,000株

(注)個人・その他には、自己株式(2010年3月末256千株、2009年3月末238千株)を含む。

外国人持株比率

2008年3月末	2009年3月末	2010年3月末
15.80%	12.98%	14.13%

2. その他関連データ

従業員数(就業人員数)推移

(単位:人)

	2006年3月末	2007年3月末	2008年3月末	2009年3月末	2010年3月末	2011年3月末 予想
田辺三菱製薬			10,361	10,030	9,266	9,130
(単独)	()	()	(6,266)	(5,715)	(5,186)	(4,980)
田辺製薬	4,512	4,554				
(単独)	(2,993)	(3,033)	()	()	()	()
三菱ウェルファーマ	5,902	5,907				
(単独)	(3,575)	(3,488)	()	()	()	()

2009年10月以降のトピックス

2009年 10月1日	本社を大阪市中央区北浜へ移転
10月1日	当社が取扱う長期収載医薬品4製品を連結子会社である田辺製薬販売に販売移管
10月1日	大阪工場を会社分割し、連結子会社である田辺三菱製薬工場に承継
10月5日	慢性腎不全用剤「クレメジン」について、クレハと日本国内における販売権取得に関する契約を締結
10月26日	経口脊髄小脳変性症治療剤「セレジスト錠5」について、新たに口腔内崩壊錠である「セレジストOD錠5mg」を新発売
11月13日	ジェネリック医薬品5成分8品目を新発売
12月7日	トクホンが製造販売承認を取得した経皮吸収型鎮痛消炎プラスター剤「ヤクバンテープ60mg」を、科研製薬と共同で新発売
12月22日	横浜事業所 創薬化学研究棟の建設(2010年1月着工、2011年2月竣工予定)を発表
2010年 1月7日	持田製薬が抗うつ剤として開発を進めている選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)「エスタロプラム」の日本国内における共同販売に関する契約締結を発表
1月20日	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード点滴静注用100」について、乾癬(尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症)の効能・効果の追加承認を取得
2月2日	連結子会社である天津田辺製薬が環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得
3月5日	ワクチンの予防接種に関する正しい知識の提供と啓発活動をサポートすることを目的とした新しい健康支援サイト「ワクチン.net」を開設
3月26日	乾癬の患者さんのための疾患啓発ウェブサイト「乾癬ケア.net」を開設
4月13日	当社および連結子会社であるバイファは、厚生労働省より、薬事法違反による行政処分を受けた。処分の内容は、医療用医薬品「メドウェイ注5%」承認申請において、バイファが不適切な行為により作成した資料を用いて両社が申請を行った事実など、および当社の管理監督責任により、当社を対象とする「第一種医薬品製造販売業」の25日間停止、バイファを対象とする「医薬品製造業」の30日間停止を受けるもの。あわせて、当社およびバイファに対して業務改善計画書の提出を命じられる。
4月16日	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード点滴静注用100」について、強直性脊椎炎の効能・効果の追加承認を取得

本資料に関するお問合せ

広報部

TEL 06-6205-5211 FAX 06-6205-5105